

NEWSLETTER

NO. 13

30 JUNE 94

- | | | | |
|-----------------|-----|-------------------------|------|
| ・巻頭言 | (1) | ・1994年3月卒業生の就職先 | (6) |
| ・教室をめぐる動き | (2) | ・卒業生からの便り：前略瀬戸先生 | (6) |
| ・教員の研究活動 | (2) | ・地理学専攻卒業生に対するアンケート調査の結果 | (7) |
| ・非常勤講師の先生から | (3) | ・昨年度(1993年度)地理学教室予算 | (13) |
| ・1994年度教員在室時間割 | (4) | ・主要購入備品のリスト | (13) |
| ・1993年度卒業論文主題一覧 | (4) | ・主要購入図書のリスト | (13) |
| | | ・国土館大学地理学会会長より | (15) |

巻頭言

情報化時代の地理学

地理学専攻主任 瀬戸玲子

地理学 Geography とは地域について叙述することであるが、文としてのみならず、地図という表現手段ももっている。大航海時代にはヨーロッパ人の探検航海は世界地図を描いてゆくことであった。現在、衛星画像が世界中をカバーし、未開発地域、発展途上国でも日本の国際協力事業団の技術指導などにより、正確な大・中・小縮尺の地形図が作成されている。日本などでは地形図のほかさまざまな主題図も作成されている。古地図についても昨年だけで「荘園絵図とその世界」展（国立歴史民俗博物館）、「西洋人の描いた日本地図—ジバングからシーボルトまで—」（サントリー美術館）展、「古地図の中の日本」（天理ギャラリー）展などをみることができた。国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館があって、地図学博物館がないのはおかしいと、日本地理学会に2年前に国立地図学博物館設立推進委員会ができた。折りしも、先だって巡検で訪れた建設省国土地理院の史料館に40億の予算がついて拡充されることになったのは喜ばしいことである。

多種多様な地図を収集、整理した施設をつくり、利用者はこれらを自由に閲覧でき、また単に見比べるだけでなく、コンピュータ処理により地図データとして利用できることが必要である。地図は位置情報をもっている。例えばこの大学は日本全土を経緯度で区画した8桁番号のいずれの地域メッシュに入るか、あるいは具体的な正門の位置のような点データ、敷地の輪郭のような線データは屈曲点のX、Y座標値で表示もできる。どんな学科、科目があり、学生がどれ位いるかなどは属性データとして格納する。都市計画地域の用途地域では何になっているか、緑被率、地形区分などさまざまなデータもいれておく。これを必要な時、必要なものをとりだし、組合せたり、計算処理し、表や地図として出力する。GIS（地理情報システム）が情報化時代の地理学の担い手として期待されている。GISは大規模なコンピュータ設備とソフトを使いこなす人の問題で、まだ限られた行政機関、大学、研究所にしか入っていないが、国立地図学博物館で国公私立大学の共同利用施設とすることが望まれる。

一般の人に地理、地図に親しんでもらうものとして地図公園がある。3年前グアテマラを訪れた時、グアテマラシティの郊外でレリーフマップ公園をみた。全土を水平縮尺1/10,000、高度縮尺は1/2,000とした露天の立体地図模型だけの公園である。旅行中、湖を渡って対岸の村にゆく時、日本の象徴のような富士山が3つも一緒にみえて、この国が環太平洋の火山帯であることを改めて認識したが、高山も低湿地もある国土であるから、模型の両端の展望台から見下ろしたり、縁の遊歩道を歩いていて大変見栄えがした。地図学博物館にも日本全土の立体地図公園ができると楽しい。

世界史が必修で地理は必修でなくてもよくなって、地理学の有用性が見失われる懸念があるなか、情報化時代に対応できる地理学として地図情報やGISの積極的な利用を考える時である。

教室をめぐる動き

この4月に次の人事がありました。

長谷川均先生 助教授に昇任
＜非常勤講師の新任＞

福島義和先生（本務校 専修大学） 首都圏地誌、外国地誌（アジア）
長沢利明先生（東京理科大非常勤講師） 文化人類学研究

許衛東先生が関西の大学に就任されることになり、3月で退任されたため、高木正先生に経済地理、外国地誌（発展途上国）をもっていただくことになりました。

教員の研究活動

長島 弘道 教授

＜研究活動＞

論文：

Idle Lands in Mountainous Areas of Tokyo Metropolitan Region, M.D. Nellis(ed.), Geographic Perspectives on the Social and Economic Restructuring of Rural Areas, Proceedings of the Commission on Changing Rural Systems, pp.198-210, Kansas State University, USA.

口頭発表：

Management of Abandoned Cultivation in Mountainous Areas in Japan, IGU Study Group on the Sustainability of Rural Systems. モントリオール会議 1993年8月

瀬戸 玲子 教授

＜研究活動＞

論文：

関東地方における昭和40年(1965)～60年(1985)の市区町村別通勤人口分布の変化 (1) 一主要都市への通勤人口 地図 32-2 1994 (印刷中)

口頭発表：

1994 関東地方における昭和40年(1965)～60年(1985)の市区町村別通勤人口分布の変化
日本地理学会春季学術大会 日本地理学会予稿集 45

委員会活動：

1992年4月～ 日本地理学会、国立地図学博物館設立推進委員会委員

その他：

1993年9月6～10日、早稲田大学で開かれたアジア太平洋地域の地形災害国際会議および巡検に参加し、狩野川放水路、富士海岸の離岸堤、富士川・釜無川の新旧護岸工事、御勅使川上流の砂防堰堤工事を見て廻り、自然地形の変化と土木工事に対する莫大な投資に感じ入りました。

野口 泰生 教授

＜研究活動＞

論文：

日最高・最低気温の永年変化に与える都市化の影響、天気、41(1994),123-135.
生活と環境：ジオグラフィックアプローチ(共編著)、技術書院(1994)

書評:

根本順吉著「世紀末の気象」(筑摩書房)、地理38-11(1993)

太田堯編「学校と環境教育」(東海大学出版会)、地理39-01(1994)

口頭発表:

都市とその周辺地点との気温差の時間的・地理的变化について、日本地理学会春季大会、明治大学(1994年4月)

長谷川 均 助教授

＜研究活動＞

論文:

「サンゴ礁干潟の環境変化と保全」第三期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成研究報告書、24頁。

(財)日本自然保護協会へ提出。山内秀夫、長谷川均、目崎茂和、前門晃による共著。

年度末にかけて急いで書いたものが3本、これらは印刷中なのでご期待。

口頭発表:

「石垣島名蔵湾アンパル干潟の環境変化」日本地理学会春季学術大会、1993年4月6日、明治大学和泉キャンパス。

長谷川ほかによる連名発表

「石垣島名蔵湾アンパル干潟の堆積環境」日本地理学会春季学術大会、1993年4月6日、明治大学和泉キャンパス。

山内ほかによる連名発表

＜近況＞

・ながらく係わってきた石垣島と高知のサンゴ保全問題が一段落しそうな気配です。石垣島白保に関しては、早々に論文を書こうと思っています。

内田 順文 講師

＜研究活動＞

論文:

「比喩的認識と場所イメージ」国士館大学文学部人文学会紀要26、68-96頁。

非常勤講師の先生から

こんな私でよかったです

長沢 利明

今を去ること十年ほど前、世田谷区役所に用があり、チンチン電車に乗ってやって来たのはいいが、役所の土曜開庁が徹底しだした頃で、庁舎の玄関は非常に固く閉ざされていた。いったい何のためにわざわざ世田谷くんだりまでやってきたのだろうと肩を落として帰ろうとした矢先、昨夜のコンパの呑みすぎで腹をこわしたせいか、胃腸の内容物が急降下を始め、突如として何とも抑えがたい強烈な便意におそわれた。これは困った、どうしようかとあせっていると、目の前にさる大学の正門が見えるではないか。地獄に仏どころか、私にはそれが極楽浄土の入り口にも見えた。猛烈なダッシュで構内に駆けこみ、とびこんだ所が今にして思えば第一体育館二階のトイレで、かくして事なきを得たというのが、私と国士館大学との初めての出会いなのであった。

のっけから汚い話をして恐縮であるが、何事も最初の出会いがひとつの縁である。私と国士館大学とはどうやら赤い糸で固く結ばれていたようであり、何ともみっともない、そして情けない経験であったとはいえ、十年前の私のピンチを救ってくれたこの大学から、はからずも今度は非常勤講師として拾っていただけることになった。そういうわけで、あまり脈絡のある話ではなかったけれども、何はともあれ、まずはよろしくお願ひいたしますと、学生諸君には挨拶を述べておきたい。私という人物は一見、生真面目で怖そうな印象をもたれるようであるが、上記の話に明らかなように実はオッチョコチョイでくれた人間なのであり、自分でそういうのだから間違いはない。だから学生諸君も遠慮をしないでいい。積極的に話しかけてみないと必ず損をする。こんな私でよかったです、何でも相談に乗るので気軽に声をかけてみて下さい。

1994年度 教員在室時間割

【凡例】

Na: 長島 Se: 瀬戸 No: 野口 Ha: 長谷川 Uc: 内田

_____ : 講義中、 _____ : 在室、 - - - - - : 在室していることが多い、 後: 後期開講

	校舎	9:00-10:30	10:40-12:10		12:50-14:20	14:30-16:00	16:10-17:40	
月	世谷			No				
	鶴川	Se _____		Ha -				
火	世谷			Na _____				
	鶴川	Uc _____		No _____			後 _____	
水	世谷	Se _____			Ha - - - - -			
	鶴川							
木	世谷	Se _____	Ha -		Uc - - - - -		後 _____	
	鶴川		Na _____				後 _____	
金	世谷	Na _____	後 _____	※				
	鶴川		No _____					
土	世谷	Uc _____						

※第3または第2金曜日は教室会議(12:00-)・教授会(13:00-)があり全員が出校しています。

上記時間以外の面会、相談などはAppointment によります。相談、質問などは教員の出勤中に済ませて下さい。

教員の自宅、特に非常勤の先生宅への電話は極力ひかえて下さい。

研究室の電話は、03(5481)3245 (長島・瀬戸・内田) , 3246 (野口・長谷川)。

文献、機材の借出・返却は、貸出簿に記入したのち、在室教員のチェックを受け、サインをもらってください。

1993年度 卒業論文主題一覧

- 1 土屋 靖 藤沢市鵠沼における高木の分布状況の特性
- 2 羽多野俊宏 横浜市における環状道路計画とそれに対する市民意識
- 5 牧野 民子 丹沢山地・大山における踏みつけ植生の影響について

- 6 朝井 真一 霞ヶ浦湖底にみられる凹地の形態と凹地表層堆積物の粒度組成について
- 8 奈良 賢祐 釧路市における都市景観
- 11 山岸 学 東京都西多摩郡日の出町におけるごみ処分場立地に対する住民意識の変化
- 12 高橋 誠 ヨシ群落の分布形成要因
- 13 福田 真理 SD法による鎌倉五山のイメージについて
- 14 中村 仁一 島根県仁多郡横田町三井野原における開拓集落の形成と変容
- 15 大倉 英彦 都県境付近居住者における隣接地域との関わりあい
- 16 荒木 孝之 神奈川県小田原市における蒲鉾産業の問題と対策
- 17 山内 尊明 大田区池上地域における商店街の形成過程と将来の展望について
- 19 副島 建一 産業廃棄物処理場建設に反対する住民運動の展開
- 20 池田 厚 神奈川県鎌倉彫り解剖
- 21 鈴木 英樹 東京近郊電車の鉄道イメージ
- 22 山下 純司 山梨県東八代郡の果樹生産農家の現状
- 23 樹所 毅 内湾性サンゴ礁の地形的特徴
- 26 佐藤 悦子 神奈川県大和市における商業地域の変化と今後の展開
- 27 室井 秀晴 茨城県常陸太田市における東通り商店街変化の要因
- 28 星 いずみ 新潟県塩沢町におけるスキー場開発と周辺地域の就学構造
- 30 関口 肇 横田基地の騒音問題と周辺地域住民への補償状況
- 31 吉江 健彦 諏訪湖の富栄養化の経緯と浄化対策について
- 32 前田真太郎 奥秩父・鉄山～国師ヶ岳における縮枯れ現象の主因
- 33 川島 正久 「祭」からみた「混住化」による地域構造の変化
- 34 門奈 芳生 関東平野北東部における局地風「筑波おろし」について
- 35 荒谷 忠彦 千葉県における国道16号線ロードサイド商業の現状
- 39 田尻 久枝 東京都江戸川区における小学校の空き教室転用と地域の関係
- 41 谷田貝清晃 立川市砂川地区における生産緑地指定の影響と農家の対応
- 43 佐藤 哲郎 長野県八ヶ岳中信高原国定公園霧ヶ嶺における帰化植物の侵入状況と周辺環境の関係について
- 44 三代川正幸 東京湾の千葉県側における湿地保護
- 46 久保田晃央 長野県下伊那郡大鹿村における電気部品工場の実態
- 47 野股 正宏 新潟県豊栄市福島湖の自然環境と社会・文化的役割及び今後の課題について
- 48 田巻 耕一 住宅団地における高齢化問題
- 49 佐藤 幸治 神奈川県横浜市における接収地の跡地利用と接収が市に与えた影響
- 49 土田 方正 千葉県松戸市千駄堀の植生変化
- 50 横田 薫 日本の歴史的町並み保存と運動
- 51 深山 健一 千葉県下(房総リゾート地域整備特定地域)におけるリゾートマンション建設の推移と立地特性
- 52 野田 治夫 山梨県南都留郡山中湖村における観光地域の変容
- 53 渡邊美由紀 横浜「海の公園」における人工砂浜の植生
- 55 磯村 勝博 東京都北区における緑の現状と崖地樹林保全
- 56 須藤 賛也 都市化の進展に伴う水質汚濁と水辺環境保全の住民意識
- 57 松林 亮 視野から見た東京山手線主要5街区における色彩と地域性の関係について
- 59 清滝 淳也 長野自動車道の開通による長野県松本市及びその周辺域の工業への影響
- 64 世古 佳美 東京都におけるごみ処理リサイクル事業の地域的特性
- 65 坂元 敦子 岐阜市の冬期気温分布について
- 67 金崎 忠春 東京都江戸川区における工業の変遷について
- 68 前田 徳之 スキー場の植生とグレンデ管理による植生への人為的影響
- 70 鷹箸 二郎 福島県いわき市における環境と調和した都市開発の可能性
- 72 堀江 武史 茨城県結城市における繊維物産の現状とこれからの展開
- 73 伊藤 恵喜 都市間交通機関としての高速バスの役割と今後
- 74 玉橋 修 追跡調査による購買行動特性
- 75 佐藤 弘 東京都台東区における老人福祉サービスの地域的役割
- 76 森 輝 多摩川流域自治体における河川の汚濁の差異とその要因
- 77 大波 修 都市河川における水草の分布と水質との関係
- 78 春川 幸久 丹沢におけるブナの立ち枯れの分布とその成因

- 79 伊藤 敬暢 生物学的にみた河川の水質階級
 80 菅谷 淳一 東京都区部における駅前放置自転車問題
 713 真鍋 仁 東京都世田谷区における過去10年間の地価変動について
 714 中島 豊 ランドサットMS.Sデータによる落葉樹林の季節変化の抽出
 715 寺内 滋 千葉県印旛沼の水資源利用と水質・環境保全対策
 716 大和 祥二 農村における消費者買い物行動
 718 茂木 明 森林限界の成因と植物群落の立地条件
 720 岩切 靖志 石垣島におけるクチ地形
 721 井出 勉 浅間火山南側斜面におけるハザードマップの作成と火山地域の防災対策
 722 高橋 美勝 濃尾平野における地下水位変化と塩水化について
 726 稲本 献 丹沢山地西部における石英閃緑岩帯と遷急との関係について

以上 66論文

- ・3月におこなわれた全国地理学科卒業論文発表大会では、鈴木英樹さんと前田真太郎さんが発表しました。
 - ・1986年以降に審査された卒論のなかから、優秀なものや資料的価値の高い論文は製本され公開されています。
- 年度別、分野別に製本された卒論は第2研究室で閲覧できます。学籍番号に梨地(●)のあるものが本年度の製本ぶんです。

付：1994年9月卒業予定者論文主題

- 603 風間 吾郎 駐車場の拡大による八王子市中心市街地の変容
 715 河野 友洋 神奈川県相模原市米軍基地倉庫が周辺地域に与える影響について
 718 富田真樹子 都市の公園緑地における気温抑制効果
 720 国枝 康宏 東京都墨田区における工場立地と土地利用構成の動向
 岩見 一郎 模型専門店の立地の移動について

1994年3月卒業生の就職先

ここに示したデータは、学生から教室に報告された就職先です。業種、職種が特定できないものも多いので、1月現在の就職決定先の名称だけを掲載しました。

釧路町役場 株式会社名給 トヨタ東京オート 小田原消防 新潟トヨペット 日本ケンタッキーフ
 ライドチキン 大日製缶 開発電気 関東鉄道 YAMAMURA
 都留信用組合 サンドラッグ 宝フューチャーズ ダイワフューチャーズ
 株式会社岸勝 喬木村役場 千葉測器 東京郵政局 山文産業
 JA川崎市多摩 アイリスメガネ 千葉県住宅供給公社 共同測量社
 日本旅行 丸進商会 小田急バス 株式会社キャッツ ドライバースタンド
 ディーエム情報システム 日立オートシステムズ バーバーイワサワ
 千葉県観光公社 日本橋大増

卒業生からの便り

瀬戸玲子様

第210期4班 堀江 武史

記

瀬戸先生、在学中は大変お世話になりました。私は今、就職先の合宿研修に参加しています。4月1日から16日まで朝は午前6時から夜は午後11時まで毎日規則正しい生活をし、社会人となるための勉強を日夜励んでいます。この研修は茨城県守谷の会社の研修所でおこなわれており、同期の仲間95人と共にがんばっています。

在学中はレポート提出やゼミの授業のときなどいいかげんにやってきた私ですが、この研修により、少しはまともな人間になれるだろうと思っています。学生時代はまあいいやと過ごしてきたことも社会では通用しないことを知りました。

この研修ではヴォイストレーニングをおこなっています。大きな口を開けて大きな声であいさつをしたり、また発声の基本で「南無妙法蓮華經」と大きな声で発声をするなどかわったことをやりました。この発声の練習でわかったのが、自分がいくら一所懸命やっているつもりでも認めてくれるのは他人だということです。自分では声を出しているつもりなのですが顔が一所懸命には見えないそうなのです。これはショックでした。以前から自分では全く気付いていなかったのに、ここで他人にはじめて指摘されたのですから。在学中も先生にはそう見えたのでしょうか。

この研修所ではゆとりのある行動をすることが基本となっています。集合時間の5分前には現場に到着していなければなりません。このことについては私は以前からおこなってきたので別に何とも思わなかったのですが、社会人になって、ゆとりのある行動の大切さがさらに重要であると思いました。例えば取引先などに訪問するときなど時間に遅れることは最も許し難いことなのですから。学生時代に遅刻しそうなときにはまあいいやとあきらめることはおぼできません。

この研修の半ばには40kmはとても長かったです。午後2時に出発し、7時間かけて歩きました。感想としてはけっこう歩けるものだと思います。さすがに次の日からは筋肉痛で動くことができませんでした。でも女の人も同じようなタイムで歩き通したのですから泣きごとはいってはいられません。この40km歩行訓練を通して仲間の大切さが理解できたと思います。私は最初、絶対リタイヤすると思っていたのですが班の人たちが私を助けてくれたおかげでがんばれたと思います。この研修を通して、学生生活との自分とは違う自分になれると思います。

それではお体に気をつけて...

以上

地理学専攻卒業生に対するアンケート調査の結果

(1994年3月卒論公開口頭試験後に実施)

1. 卒論を書き終えて最も印象に残ること、地理学教室への要望、その他(たとえば、卒論の手引きの使い方、論題の決め方、指導の仕方、等)について書いて下さい。

- ・自分にとって為になったのではないと思う。
- ・卒論はやはり取り組むべきだ。卒論の指導そのものは良いと思うが、先生があまり学校に来ていないので提出が近づいてきたときなどは大変だと思う。
- ・やはり早め早めが何よりも良いと思った。あと、先生にあまり卒論を読んでもらえなかったのは残念であった。
- ・卒論を書く期間が短かったので、もっと早くから書いていればこんなに苦労はしなかったかも?
- ・もっとグローバルに、もっと細かく、もっと熱心に調査をやればよかった。4年間ありがとうございました。
- ・書くのはとても大変でしたが、長い人生の中でいい思い出になるとおもいます。
- ・前に出るまではきんちょうしたが、はじまると不思議とおちついた。
- ・卒論を書き終えたときのそうかい感。
- ・印象: 提出期限8分前に提出したこと。
- ・ただただ時間に追われ、納得のいかない論文を出さざるを得なかった自分に情けなさをおぼえたとともに、やっと終わったという安心感があった。
- ・学生はもっと積極的になるべき。先生方はそれに応えられる状態にいて欲しい。
- ・人文向けの卒論の手引きがあってもよいのではないのでしょうか。
- ・リモセンは1年生からやる。
- ・卒論の口頭試問をなくして欲しい。もう会社の研修が始まっており、他の方でも同様の方がいると思う。「まだそんなことをやっているのか」と人事課長にいわれた。会社の研修を休まないようにするためにも、これはなくしてほしい。
- ・ためになった。自分が思うままにつき進むべきだ!
- ・発表において、時間が少なく、内容の1/2も話せなかった。教授との綿密な打ち合わせは必要と今になって痛感した。
- ・卒論を書き終わるまでの2、3週間、ほとんど家から出なかった。
- ・卒論締切時間のベルの音が印象に残っています。

- ・ゼミの先生にもっと卒論について指導していただければよかった。ゼミ以外の先生にも指導を頂ければよかった。
- ・卒論が地理からはずれてしまった。先生方の指導は本当に満足のいくものでした（ゼミの人数が多いのはあまり良くないことだと少し思った）。
- ・なぜ論文を多く読めば良いのか気付くのが遅かった。コンピュータを使うのに苦労した（理解面において）。
- ・縦のつながりが必要と思う。
- ・アンケート調査で苦労したこと。
- ・たいへん。
- ・何をあきらかにしたいかをはっきりさせておかないととんでもないめにあう。
- ・予想以上に調査時間がかかり、なんとなく中途半端だったように思います。卒論の手引きで、人文地理的なものも作製してほしかった。ゼミをもっと早くから始めてほしい。
- ・地理学教室は学生や教授のコミュニケーションの場となっていていによろし。
- ・もう少し早めに作業を行っていたらよかったという遺憾の念と、やっとおわったという安心感が入りまじった複雑な気持ち。
- ・12月10日の夜、布団に入ったとき幸せを感じた。やはり卒論は計画的にやらねばと後悔した。
- ・これで人並の生活に戻れると思った。
- ・卒論は早めにやりましょう。
- ・何と言っても卒論を書き終えることができたのが一番うれしい。
- ・アンケート調査が大変だった。
- ・データ処理がたいへん。
- ・毎週ゼミで1人1人発表することは大変であったが、そのおかげで書き終えることができ、よかった。
- ・調査地の立ち入りきよかをもらうまでに時間がかかったので、もう少し早い時期からとりくむべきであった。
- ・疲れました。私なりに一生懸命やりましたが、本日の先生方の御指摘どおり、欠点がありすぎました。そこがやりのこした感があり、少し悔いが残ってます。でもやり遂げたという満足感は非常にありました。
- ・1,2年の鶴川はきつかった。
- ・卒論の準備を早いうちからとりかかったのは、後になって助かった。
- ・早く調査を始めればよかった。ゼミは3年の後期からでなく、もっと早くから開講してほしい。
- ・教室にもっと地形図を入れてほしい。
- ・卒論が研究ではなく、現状報告になってしまった。論題は調査を行っていくうえでどんどん変わっていくので、なるべく早めに決めましょう。
- ・最初に感じるのとは解放感だったと思う。でも満足できる出来ではなかったので、次にくるのは口頭試問をどうしたら上手に発表できるかという悩みだった。地理学教室には自然の器材がけっこうそろっているの、人文の人のために、アンケートの作り方とか、フィールドワークその他調査のために役立つ文献（器材）もそろえてほしい。
- ・まとめにとりかかるのが遅かったため、卒論の内容が甘くなってしまったと思う。
- ・発表会にて野口先生と長島先生が、お怒りになっていらっしやったことです。20分の発表が40分近くになったことです。
- ・就職活動が延び、実際に書き始めたのが9月に入ってからであったので、満足いくレベルまで持っていけなかったのが悔しく思う。それと卒論のテーマのおかげで就職先が決まったことで、「芸は身を助ける」という言葉が良くも悪くも身にしみた。
- ・全て後手後手で終わってしまった。提出してから書き直したい所がたくさん出てきた。
- ・アンケート調査を行ったが、なかなか答えてもらえなかった。
- ・卒論は大変な作業だが、やりがいがある。今思えば、どうしてもっと良い内容が書けなかったかと思う。ゼミは2年で始めていいと思う。3年の前期まではゼミで一つのテーマについて研究した方がいい。
- ・もう少し早くから卒論を書けば良かった。もっと先生に原稿を見せて指導してもらえばよかった。もっとパソコンを導入して下さい。リモートセンシングをもっと早い学年から2-3年かけてやってください。
- ・始めるのが遅く、時間におわれていたのが印象に残った。
- ・論題を決める時期が早いと思う。
- ・発表の時の机をもっと高くしてほしい。
- ・一言でいえば、つかれた！でしたわー。
- ・つかれました。
- ・課題研究の講義をもっと早くからやってほしい。
- ・つかれました。

- ・自然地理の場合、特に足と体力が第一条件である。その中であえて部屋の中での作業を中心にやった。だが現地調査をできれば、自身をもって提出できたと思う。春休みの調査ができなかったことがあせりを生み出した。
- ・長い間ありがとうございました。
- ・すべての面で難しい。野口センセ申し訳ありませんでした。以後の人生に役立ってます？
- ・長い間とても疲れました。

2. ここ数年、地理学専攻の留年者の数は、他の専攻と比べて多いようですが、何か理由があると思いますか。あなたの意見を聞かせてください。

- ・地理学が好きな人が多いのではないかな。
- ・卒論を出さ(せ)ない人が多いと思う。
- ・地理学の奥の深さを知ったからなのではないかな。
- ・卒業または研究に対する意識がないのでは。あれば卒業できるし、卒論も書けると思います。
- ・地理ときくと中学や高校の地理をそうそうし、じつさい大学に入って地理学を学ぶと、そのむずかしさにギャップをかんじてしまうからではないでしょうか。
- ・他と比べていささかきびしい。
- ・卒論。
- ・のんびりしているから。
- ・規定が大変厳しい。
- ・地理学の論文はテーマが固まっていないとすぐ詰まって、結局提出できなくなると思う。テーマ選びをしっかりとするべき。
- ・ゼミを3年の後期からではなく、早めに始め、卒論の準備にのぞんだ方がよい。
- ・他の専攻の審査が甘いからだ。
- ・変な奴が多い。
- ・必修科目が作業が多く、大変だからか？当然、卒論があるからではないかな。
- ・卒論を軽く見すぎている。
- ・単位を修得する上で、まず授業に出席していないことが一番の原因。卒論調査の開始時期がおそい。
- ・なまけものが多いのかもしれない。
- ・社会からの現実逃避。
- ・卒業したくない症候群の末期的症状だと思う。これは大学の居心地が良すぎるからで、もっと居心地を悪くしてやればよいのではないかな。
- ・たるんでいるから。
- ・厳しすぎる。
- ・わざと留年する人がいるかもしれません。4年で卒業してしまうより、いろんなことができて良いかもしれません。
- ・卒論作製の開始時期が遅いのでは。
- ・出欠が厳しいため、ある程度休むと単位がもらえないなどが原因ではないだろうか。
- ・最低限のやる気と教科・先生との相性、最後は運があるかないか。
- ・留年者は授業に出ていない人なので、授業に出るように自分自身が努力しなくてはいけないのでは。たとえ嫌いな先生や教科でも受けないと卒業できないのだから。
- ・卒論をださない人が多い。
- ・授業の選択の余地が少なすぎると思う。
- ・授業が(4年の時)就職活動をするための多い火～金に多いことと、セミナー等が終わってから間に合う5限の授業が少ないことが原因だと思う。
- ・個人の問題である。
- ・K.I.君のように女におぼれた。
- ・他の学部・学科と比べ、卒論審査が厳しいためではないかな。
- ・留年者のほとんどは卒論等の提出物を出していない人だと思います。提出物を出す出さないは本人の問題ですので、別に地理学のせいだとは思いません。
- ・いごちがいいから留年するのではないかな。
- ・他と比べて調査が大変であるから。
- ・本人に地理学が合わないのではないかな(入学する前にイメージしていた地理学と大学の地理学とのギャップ)。
- ・学生自体の意識の変化でしょうか、留年を苦痛に思っていない。

- ・地理学専攻だから留年しているとは思えません。留年者それぞれの事情があると思います。
- ・卒論を書くエンジンをかけるのが遅いとか、それに加え時間がないにも関わらず、細々としたことにわずらわされて論文をきまじめに？書く人や、納得いくできに仕上がらないと思うと出すのをあきらめる人が多いのかもしれない。ゼミを2年くらいから参加できるといいのではと思う。
- ・データの集計に時間がかかってしまい、まとめきれなくて、といったことによるのでは。
- ・学生の勉強に対する姿勢に問題があるのだと思います。
- ・普通にやっていたら何とかなるはずである。どこかで努力が足りないか、根性がないかだと思う。留学とかは別として、何かしら理由をつけて留年する人もいるが、単に逃げとしか思われぬ。大学院とか研究とかいうなら、4年で結果を出すのが筋だと考える。
- ・138単位は普通に授業を履修していればとれない単位数ではない。卒業論文として未熟なだけでは？それだけ地理が高いレベルを求めていると思えば、腹も立たない。
- ・地理の卒論は自分自身で調査研究するもので、かなり気合いを入れてかからないと留年することになる。
- ・学生の意欲の低下に限る。今の学生は受け身の教育をずっと受けてきたので、調査のように自ら能動的に動くのは下手なのではないか。
- ・卒論で公開口頭試験を設けており、また先生方の批判も厳しいものがあるため、自分の論文に不安のある人や就職活動の長引いた人は提出しづらくなるのではないだろうか。また試験の採点も辛いような気がする。
- ・個人のやる気の問題だと思う。それほど大変な4年ではなかった。
- ・卒論の存在が第一の理由であり、就職難もその理由の一つと思われる。
- ・それが普通、落ちるべき人は落とすべき。
- ・それは地理学専攻だけの問題ではなく、大学自体の問題であると思う。大学が居心地がいいのはいけぬのではないか。
- ・しょうがないと思う。
- ・私は何も言えません。
- ・他専攻に比べ学生数が少なく、教授陣の一人一人に対するチェックが厳しく、プレッシャーを受けるためでは。
- ・教職などの他の資格をとる場合、他の専攻と比べて時間割が組みにくくなっている。4年で単位をとる必要がでてくることも一因である。
- ・ゼミの先生とよく話し合って目的をはっきりさせれば良いと思う。
- ・卒論に関しては、何をやるのか目的をはっきりさせ、担当の先生によりアドバイスをもらい、またよく相談するとよい。十分な準備も必要だ。けいけん者より！
- ・学習内容が他学部よりこいと思うのでしかたのないことだと思う。

3. 国土館地理学会の運営や活動について意見を書いてください。また、国土館地理学会の会費を払っていない人が相当数いますが、このことについてどう思いますか。なぜ払わないのか、その理由がある人は書いてください。

- ・地理学会に参加していないのに金を払うのはバカバカしいと思うのではないか。
- ・活動内容が今ひとつわからない。会費が何に使われているかが、あまり公表されていない。
- ・学会費の用途など、知らせた法がよいと思う。学会費未納に関しては私も払っていないので、何ともいえない。
- ・私のように運営や活動に携わっていない者からみれば、すごく頑張っていると思います。会費を払っていないのはいけないと思う。国土館地理学会の会員なのだから！
- ・私も今年度分の会費を払い忘れまして。今から払います。巡検に行っているのだから、払わなくては。
- ・全体にきふが多すぎるから。
- ・別に払わなくてもいいんじゃない。
- ・4年間払いました。
- ・運営や活動については意見はありません。今のままでよいと思います。会費を払っていない人については払うべきだと思う。
- ・特定の人たちしか参加していないように思われる。
- ・きっと、支払い方法に問題がある。
- ・貧乏。
- ・地理学教室にいる人たちが排他的で、非常に入りにくい雰囲気がある。あんな奴らに払う金などないと言ってふとどき者がいましたよ（多数）。
- ・わからなかった。
- ・郵送される振込用紙を見なかった。

- ・学会の活動は現状のままでも十分いいものだと思う。
- ・ごめんなさい。
- ・一部の人のみの参加と思われる。多くの人が参加できるよう工夫が必要と思う。
- ・払うべきです。払っていない人がいるから、自分も払わないという論理はあまりにも幼稚です。文句があるなら堂々と抗議しなさい。受けて立つぞ!!
- ・見返りが無いから。
- ・地理学会が何をしているのかよくわからない。
- ・地下組織的な雰囲気強いと思います。
- ・いたいところをつかれた。もっと強制的にちよーしゅーした方がいいと思う。
- ・地理学会にほとんど係わっていない人たちにとっては払う必要がないと考えられているからではないだろうか。
- ・運営費の詳細がわからない。
- ・申し訳ございません。
- ・地理学会のおもみがかかる。
- ・そんなの知ったことではない。学会なんかなくて何ら不都合はない。学会費なんて払うだけムダ。絶対払う気はない。
- ・払わなくてもいいと思う。
- ・地理学会の運営や活動内容がよくわからない。
- ・ごめんなさい。
- ・強制ではないので払わなかった。また私は学会とかに参加しなかったので払う必要もないと思った。
- ・同じ人がずっと役員をやっていて、他の学生との交流がないので、閉鎖的になっている。
- ・地理学会の運営・活動が学生全員に知られていない。学会は学会役員だけで行われているように思います。それで学会費を払わない人が多いと思います。
- ・学会の活動にあまり参加できなかったので残念です。
- ・お金を払う、払わないは個人の自由だと思います。
- ・役員が閉鎖的、これは大問題であると思う。このことが学会費未納者続出の原因の一つにあると思う。役員とは別に評議員や監査もつけ閉鎖的な現状を打破しなければならぬ。彼らにもう少し代表としての意識を持ってほしいと思う(留年するような人が役員をやっているのは非常に深刻だと思う)。皆が参加していると思える学会づくりを目指せば、会費未納者は確実に減るはず。そのために現役員を一掃し、新しい学会を作ること切に希望する。
- ・会費は払っていたが、ニューズレターぐらいしか還元されていないような気がする。収支報告を詳しくすべき。(編集者注：ニューズレターは地理学教室が編集発行しているもので、国土館地理学会とは無関係です。)
- ・何をしているのかあまり係わってない人にはこの会の理解があまりわからない。それはそれでよいと思う。
- ・この1、2年生は活発なようだが、3、4年前の学会は役員が「今日は何やるのー」といって集まってくるようだった。それに比べたら存在価値はあると思う。
- ・会費を払っている割に、施設・備品を使用している実感が湧かず、無駄なような気がする。あるいはただ面倒くさっているような感じも受け取れる。また特定のメンバーばかりが会費の恩恵を得ていると思われ、不公平感がある。
- ・もっと開放的な活動をしてほしい。閉鎖的な雰囲気であったように思う。
- ・活動内容がわからない。会費の使われ方がわからない。
- ・地理学会に入らないでもいいようにしてほしい。
- ・運営方法が不透明すぎる。会計など出てきているが、詳細が全く記されていない。活動方法についても額に見合った活動をしているとは思わない。そういったことがあるから会費を払う人が少ないのではないかとはいえないのでは。
- ・本音を言えば、学会費のムダ使い。もっと学生主体で巡検などを行う方がよいと思う。
- ・学会誌の論文の中には面白い物が結構あるのに、読まない人が多いのは残念な気がする。会費は払う価値があると思う。
- ・運営方法に問題があるとかの問題ではなく、払うのが面倒かどうかの問題である。
- ・学費などと一緒に会費を取ればいいと思う。
- ・地理学会も運営が大変だと思っています。

4. その他(後輩たちに一言など、好きなことを書いてくださって結構です)

- ・卒論のテーマは早めに決めよう。

- ・長島先生、親切なご指導ありがとうございました。
- ・地理の語源がギリシャ神話のガイアだということを聞いて、おもしろいなと思った。
- ・就職、卒論と忙しいけれどがんばってください。
- ・冒険者米青神！！がんばってください。
- ・いい卒論をかくにはきびしい先生に指導してもらった方がよい。努力がいつか実をむすぶと思います。
- ・卒論は早くやろう。
- ・やっと終わったー。
- ・新潟出身の皆さん、車を買うときは新潟トヨペットの大倉を指名してね。
- ・卒論にぼつとうできる人は早いうちから気をひきしめて少しずつでもいいから取りかかった方がいいよ。
- ・苦あれば楽アリ。
- ・就職課があってもあまり役に立たなかった。
- ・審査料¥2500の出費はいたい。
- ・自分らしく。
- ・今のうちにやりたい放だいして下さい。時間はすぐなくなるぞ。
- ・ふぁいと！！
- ・先生方お世話になりました。
- ・ご協力ありがとうございました。
- ・論文は多く読み、調査方法等参考にすると良い。アンケート調査は早めに終わらせる。とにかく卒論は提出。
- ・ん。
- ・たとえ留年しても、自分自身で満足できる大学生活を送ってほしい。学生時代にしかできないことは、たくさんあります。
- ・やりたいことは今のうちにしておいた方がいいよ。
- ・卒論でもがき苦しんで後のメリットとなるようなものを書いてほしい。
- ・卒論はすぐ始めなさい。しかしやる気が起きたときはもうメ切だよ。人は気にせず、早くから始めること。
- ・就職活動は夏休み前までに終わらせて、夏休みから卒論を始めないと、11月12月に泣くことになるよ。
- ・がんばりましょう、きあいいれましょう。
- ・12月10日の夜、最高の解放感が味わえます。がんばってね。
- ・まあ、がんばれや！
- ・卒論を後回しにすると、12月×日午後3:00にカーテンが締まる。
- ・卒論へのとりくみは早めに！
- ・就職活動は、早いうちからとりかかるのが一番です。
- ・内田ゼミは大変です。
- ・友人と過ごす時間を大切に。卒論については、楽しんで研究を行って下さい。楽しんで研究できる論題を探して下さい。がんばれ！
- ・大学のうちに（ちょっとぐらいはめはずしても）やりたいこと、興味のあること、趣味に打ち込んだりやってenjoyして下さい。
- ・待っていては楽しくならない。自分からアクションを起こさなければ楽しい大学生活は送れない。もっと楽しい大学生活を大きなキャンパスに描こう！大学に対して恨みはないし、先生方にも感謝しているし、仲間とも楽しくやった。ただ一つ思うこと、それは閉鎖的な学会役員を野放しにしていた自分にいらだつことだ！（一部の閉鎖的じゃない人ごめんなさい）ノギーとチバちゃんが別れたのも悲しい。
- ・卒論はとっとと書いて、楽になろう。できれば夏休み明けには下書きが終わっていれば良い。
- ・早い時期に卒論のテーマを決めて、いやでしょうが担当のゼミの先生の指導をよく受けた方が、後でよかったと思うことになる。
- ・で？
- ・ゼミに入ったらもっと先輩後輩の交流をした方がいい。この地理学専攻の先生方の性格から考えて、出席にこだわらない授業ほどキチンと出ないと痛い目に会う。
- ・卒論は早めにはじめましょう。
- ・がんばって下さい！
- ・もっと巡検に多く参加したら良いのでは。
- ・大学へ行く目的を論文を書く技術を磨くために来たと思っている人は、1,2年の頃から調査のために必要な車の免許を取得するなどの準備をしている。
- ・4年間のまとめです。がんばって下さい。

- ・ごころうさん!
- ・どんなに長くいても、卒業時は満足感でいっぱいですので、みなさん頑張って下さい。

★ ★

★ ★

★ ★

★ ★

昨年度(1993年度)地理学教室予算

	支出	残高
校費	1,149,000	364
研究費	2,142,000	7,726
特別実習費	3,296,000	2,850
測量実習費	340,000	1,244
	6,927,000	12,184

研究室購入主要備品リスト(1993年度)

- ・データロガー(IBC MDL-88)×2
- ・双眼実態顕微鏡
- ・デジタル表面温度計 HL-260センサ付
- ・温度計用アンプ(アンプAP-100)
- ・デジタルプランニメータ(ウシカタ)
- ・シュミットハンマー(N型)
- ・ポータブル溶存酸素計(DO-11P)
- ・ポータブルPH計(東亜HM-11P)
- ・ポータブル電導度計(〃CM-11P)
- ・同上 プリンタユニット(PR-10P)
- ・アスマン通風乾湿計×2
- ・GPSレシーバ(JRC4400)
- ・DECPC用 5インチFDD
- ・プリンタ(BJ10V SELECT)
- ・エメリー管
- ・32ビットノート型パソコン一式80HDD+シートフィーダ
- ・32ビットDOS/Vパソコン一式
- ・チゼルハンマー
- ・視差測定竿
- ・アルミスタッフ K2W 12本

1993年度地理学教室購入主要図書

朝倉書店

生気象学の事典(日本生気象学会編)

原書房

江戸東京・街の履歴書④銀座・有楽町・築地あたり
風の事典(関口)

有隣堂

南の海からきた丹沢:プレートテクトニクの不思議

大明堂

高冷地野菜:生産環境と流通(加藤)

地域と自然(千葉)

地域構造の変容と地域開発(由比浜)

歴史のふりかえり都市群(山田・山崎)5

地形図に歴史を読む(全5集)

空からみた景観シリーズ(全4集)

大都市の地価形成(脇田)

都市の地価変動:商業中心地の動向(杉村)

古今書院

環境要覧92

地理にめざめたアメリカ(中山)

フィールドガイド:小笠原の自然

印旛沼・手賀沼(山田他)

最新地理統計(1993年版)

読図と作業(籠瀬)

地理的情報の分析手法(菅野他)

地域分析の技法(鈴木他)

歴史景観の復元・地籍図利用の歴史地理

中心商業地(杉村)

都市・人類最高の傑作(服部)

人口統計学(岡崎)

自然災害調査の基礎(水谷)

環境と生態(斎藤他)

葬送文化論

現代の地方都市 (佐伯)
 日本の大都市圏 (山鹿)
 新訂河川の開発と平野 (大矢)
 岩波書店
 地図を読む (五百沢)
 アメリカ大陸の自然誌Ⅰ (赤澤他)
 ビジュアルブック江戸東京1~5
 技報堂
 極地気象のはなし (井上編)
 朝日新聞社
 古地図への旅 (矢守)
 緑の侵入者たち: 帰化植物のはなし
 名著出版
 景観から地域像をよむ
 北大図書刊行会
 アメリカの環境保護法 (畠山)
 北海道の動気候 (大川)
 日本放送出版協会
 台風の科学 (大西)
 同文書院
 富士: その自然のすべて (諏訪)
 人文書院
 熱帯林を考える (四手井・吉良)
 中央法規出版
 地球環境問題日本経済への提言
 現代のごみ問題 (行政編、文化編、経済編)
 時事通信社
 江戸東京まちづくり物語
 せりか書房
 トボフィリア
 工作舎
 恐怖の博物誌
 河出書房新社
 バブの看板
 丸善
 統計学用語辞典
 神々のみた氷河期への旅 (小野)
 新曜社
 統計ガイドブック
 東海大学出版会
 一般海洋実習ビデオ 基礎編
 //

海洋資源編

【1994年度文学部購入推薦図書リスト】

(地理学研究室で保管分)
 伊能中図 武揚堂
 オルテリウス世界地図帳 臨川書店
 19世紀欧米都市地図集成 全2巻 柏書房
 国土庁 都道府県別土地分類図 (完結)
 大矢雅彦著: アトラス水害地形分類図
 中国大陸五万分一地図集成 I、II、III、IV

文学のなかの地理空間
 心のなかの景観
 地理学の古典
 日本の果物と風土
 キムチ文化と風土
 どんな国かな
 日本の生活空間
 熱い心の島
 地球環境変動とミランコビッチサイクル
 野外地質調査の基礎
 自然災害調査の基礎
 河川地理学
 風景の中の自然地理
 シミュレーション教材の開発と実践
 火山灰考古学
 植生分布と環境変化
 とぼろうく
 日本の山はなぜ美しい
 湖沼調査法
 早稲田大学出版部
 アトラス水害地形分類図 (大矢)
 講談社
 新・化学用語小辞典
 日本経済評論社
 多摩の鉄道百年
 信濃教育会出版部
 変貌する信州Ⅱ
 東洋経済新報社
 新版SPSSX応用編(1)、(2)
 高文研
 海は泣いている
 オーム社
 地球環境工学ハンドブック
 森北出版
 パソコンによる人工衛生データの画像処理
 東京大学出版会
 グローバル気象学 (廣田)
 カリフォルニアの米産業 (八木)
 第四紀試料測定法
 同朋社出版
 宇宙から見た地球

(図書館にある分)

5千分1 江戸一東京市街地図集成 柏書房
 明治・大正・昭和 東京一万分一地形図集成
 戦災復興期 東京一万分一地形図集成 柏書房
 東京市史稿 産業篇、市街篇 臨川書店

国土館大学地理学会会長より

国土館大学地理学会の今後のあり方について積極的議論を

国土館大学地理学会会長 長島 弘道

現状および問題点

国公立を問わず地理学科あるいは地理学専攻のある日本の多くの大学には、学生、教員そして卒業生によって構成されている「学会」があります。国土館大学地理学会も学生同志および学生と教員が授業以外の場で親睦を深め、地理学について語り、調査研究をすることを目的として昭和53(1978)年に設立されました。

その後16年間にわたり学会誌の発行、講演会、巡検、研究発表会、卒業生による就職ガイダンス等の活動を行ってきました(「地理学教室のしおり 1993」参照)。

しかし最近地理学会のあり方についていくつかの疑問点、問題点が指摘されるようになりました。主なものは次の通りです。

①会費未納者と納入者の間の不公平感。具体的には未納者でありながら巡検に参加して宿泊費の補助を受けている。巡検不参加者には会員の利がない。

②学会の行事に対して関心のうすい学生が多い。

③学会の役員のみ手が少なく、役員が浮いている。学会活動は一部の学生による運営との批判がある。

④学会誌は学生の調査結果報告を中心に編集されてきたが、1991年の第6号以降刊行されていない。等

今後の対応

(1) まず議論を

かつて金属疲労ということばが新聞紙上ににぎわしましたが、組織にも時がたつにつれて疲労が現れます。その時期をどうのりきるかは、その組織の構成員の工夫と努力に大きくかかわっているように思われます。そこで早急に国土館大学地理学会の今後のあり方に関して学生同志、学生と教員で、また時にはOBの参加も得て、積極的に議論を展開して頂きたいと思います。

議論の内容は多岐にわたることが予想されますが、次の事項はぜひ加えて頂きたく、お願い致します。

①会費納入の方法および額(現在、年2000円、毎年納入)

②学会活動の内容(現在は年2回の講演会・発表会、巡検)

③学会誌の編集のあり方(内容、執筆者、編集者、刊行)

④OBへの参加の呼びかけ

(2) 今後の方針の決定

議論の場をどのように設定し、それをどのようにとりまとめるかについては、学会役員および教員も加えて検討しなければなりません。今年12月までには結論を得たいと思います。会則変更が必要になった場合は、12月の講演会およびゼミ発表会の折に臨時総会を開催することにします。

●パソコンソフト、データ

MOS-1(ももっぴい)データ5種類

MS-WORD

一太郎 VER.5. WIN版

アクセス(データベース)

VZエディター、WXII+

DOS/VX-パードライバース

一太郎 VER.5

MS/WINDOWS DOS/V

●図書および電子出版物

地理学文献目録第9集 FD版

日本地理学会予稿集93年度2冊分

数値地図(石和、地図学)

図解リモートセンシング

空中写真11枚(瀬戸ゼミ用)

地図(土地条件図など)(地図学用)

堆積物の研究法

カラー空中写真2枚(野口ゼミ)

自然保護 平成5年度分

モノクロ空中写真16枚(長谷川ゼミ)

光の辞典 英和・和英

世界地図システム